

タイトル	<i>Badger's Parting Gifts</i>				
著者（文・絵）	Susan Varley				
出版年	1984年	出版社	HarperCollins		
翻訳版	『わすれられないおくりもの』小川仁央訳、評論社、1986年				
総語数	988語	ページ数	32ページ	YLレベル	3.1
あらすじ					
<p>動物たちが仲良く暮らす森に、皆から慕われる温厚なアナグマがいました。おじいさんになったアナグマは、大好きな仲間たちに別れを告げる時が遠くはないことを悟っています。でも、年下の仲間たちがそれを受け入れられるか心配です。そこで、アナグマは折りに触れて、別れの時が来ても悲しまないようにと森の動物たちに伝えています。</p> <p>ある秋の日のこと、アナグマは杖をつきながら、モグラやカエルと一緒に丘に出かけます。年老いたアナグマは元気いっぱいに駆け回るモグラたちに、ついて行けません、はしゃぎまわるふたりを眺めて満足します。</p> <p>その晩、アナグマは今までに見たことのない夢を見ます。いつもは、杖なしでは歩くことができないのに、まるで若返ったかのように長い長いトンネルを軽々と走り抜けます。やがて、ふわっと身体が地面から離れるとすうっと落ちてゆき、身体から抜け出しました。</p> <p>翌朝、家から出てこないアナグマを案じた森の仲間たちが集まります。キツネが“Going down the Long Tunnel. Bye Bye, Badger.”と書かれた走り書きを見つけて読み上げると、皆はアナグマが亡くなったことを知るのでした。</p> <p>悲しみとともに、森は雪に覆われました。春の気配を感じても、皆で集まってはアナグマから教えてもらったことを繰り返し話しながら偲ぶ日々が続きます。凍った池でのスケート、ネクタイの結び方、ジンジャーブレッドの作り方など、なんといろいろなことを教わったことでしょう。春が訪れる頃には、アナグマと過ごした一瞬一瞬、教えてもらったことの一つ一つが、かけがえのない贈り物であったと悟るのでした。</p> <p>そよ風の吹く春の日、モグラはアナグマと一緒に過ごしたあの丘に行き、“Thank you, Badger.” とつぶやくと、その声をアナグマが聞いてくれているように感じました。</p>					
紹介					
<p>子どもたちの中には、ある時期「死」という存在に気づき、言いようのない恐れを感じる子がいるようです。友人の息子さんも幼かった頃、大好きだったお祖母さまを亡くしましたが、そのことを全く口にすることはありませんでした。しかし、時を経たある日、堰を切ったように、どれだけ悲しかったかを泣きながら話し始めたことがありました。</p> <p>この世に別れを告げる者も、大切な人を見送る者にも、その時を避けることはできません。この物語の舞台である森のように、季節が廻り、冬に眠っていた植物が芽吹き、花を</p>					

咲かせて実をつけるように、私たちは家族など身近な人から受け継いだ知恵を徐々に身につけ、日々豊かに暮らせるようになります。他者から教えてもらったことが、いつしか自分の一部になり、やがては受け取ったことを同じように他の誰かに受け渡す日が来ます。このお話では、森の仲間たち＝異なる動物種間での知恵の受け渡しが描かれています。それは、私たち人間にとっても、このような営みは必ずしも血縁者間だけのものではないと気づかせてくれます。Badgerのような存在が人の「根っこ」を形作るのでしょう。

重いテーマではありますが、淡く美しい色調のページをめくると、それも肯定的に受け止めることができます。「死」を理解できない幼い子どもには、いつか大切な人との別れがあることを教え、悲しい別れを経験した子ども（大人にも）には、その経験を受容し乗り越えるための「心の支え」となりましょう。グリーフ・ケアに役立つ1冊です。平易なことばで書かれています。大人でも答えがでない問いに思いを馳せることができます。

この絵本は、『わすれられないおくりもの』というタイトルで翻訳されています。小学校国語の教科書にも収録されており、ファンが多い一冊です。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【指導ポイント】

so that 構文

Badger was so old that he knew he must soon die.

as if + 仮定法過去

It was as if he had fallen out of his body.

過去形 + 過去完了形

All the animals had loved Badger, and everyone was very sad.

Badger had always been there when anyone needed him.

He recalled how Badger had helped him take his first slippery steps on the ice.

【授業活用例】

Warm-up game

- ① 絵を見せながら読み聞かせする。
- ② 本の絵や内容に関する質問が書かれたカードを1人ずつ渡し、答えてもらう。
(例) どんな動物がいましたか。丘の上のアナグマは何を身につけていましたか。アナグマとウサギは何をつくっていましたか、切り絵の形は何でしたか、など。
- ③ 絵本を用いて答えを確認する。

※大学生にもなると多くの方は言語偏重になり、視覚情報にあまり注意を払わなくなり

ます。このようなゲームを通して、そのことを意識化します。

Lesson

- ① 読み聞かせする。
- ② 各自、じっくりと黙読する。
グループでディスカッションする（好きな一節や絵を選び出し選定理由を述べ合う/
贈り物の意味を考える/アナグマのような存在の人がいるかを考える等）
※学生の様子により、話したくないことは話さなくてもよい、話したくない人は無理
にその思いを言語化し級友と共有しなくてもよいと伝える。
- ③ ディスカッションを振り返り、ブック・レポートを書く。

【教員による学生の観察】

絵を見せながら読み聞かせをすると、まず、柔らかい色調で描かれた愛らしい動物たちに目が留まり、優しく肯定的な気持ちになるようです。本を渡され、自分たちで再度読み進めると、物語に示されるテーマに視点がシフトします。若い学生たちでありながら、その多くが親族との別れを経験しており、その時に思いを馳せるようです。一見、ディスカッションが活発に進まないグループの学生たちも、筆を取るとレポートに深い思いを書き表すことが多いことから、多くの人々の心に響く作品であることが理解されます。

関連作品・参考 URL

作者 Susan Varley (1961～) はイギリス、ブラックプール出身のイラストレーターで、本作でマザーグース賞を受賞しています。入手困難ですが、この作品を映像化した DVD が存在します。

- ・ *Badger's Parting Gifts*. Lincoln, NE: Distributed by GPN Educational Media.
また、以下の絵本も命や死をテーマにしていますので併せて読むことをお勧めします。
- ・ Hans Wilhelm (1985). *I'll Always Love You*. New York: Crown Publishers.
- ・ Caron Levis (2006). *Ida, Always*. New York: Atheneum Books for Young Readers.
- ・ Leo Buscaglia (1982). *The Fall of Freddie the Leaf: A Story of Life for All Ages*. New York: Holt Rinehart & Winston.

備考

本稿の一部は大修館『英語教育』2020年3月号 (Vol.68, No.13) の口絵「絵本を探しに」[12]の原稿を大幅に改訂したものです。